

高度救命救急センター

1. 診療科の概要

高度救命救急センターは救急及び集中治療の専門医、また各科からの専門スタッフで構成されている。多臓器不全、多発外傷、重症頭部外傷、急性冠動脈症候群、重症呼吸不全、重度四肢外傷、中毒、重症熱傷などの初期診療から治療までを一貫して行っている。また、航空医療や災害医療、全道の救急隊員教育にも携わり救急現場からの救命率向上を目指している。

2. 臨床研修指導医

指導責任者（科長）：成松英智

指導医：原田敬介、文屋尚史、沢本圭悟、水野浩利、葛西毅彦、相坂和貴子、高橋康弘、大泉里奈

3. 研修担当者

氏名：沢本圭悟

連絡先：skeigo@sapmed.ac.jp

4. 研修初日の集合時刻と集合場所

集合時刻：8時20分

集合場所：臨床教育研究棟3階 救急医学講座教室

5. 到達目標

- ・ 外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応ができる。
＜ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、終末期の症候＞
- ・ 外来または病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたることができる。
＜脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）＞

6. 研修内容

実践的な臨床研修を行うことを目標として、救急患者の初期診療および集中治療、一般病棟における入院管理について研修する。屋根瓦方式のもと、臨床研修に必要な気管挿管を含む気道管理及び呼吸管理、急性期の輸液・輸血療法、並びに血行動態管理法等について学ぶ。実りある研修となるよう研修開始時に担当者と面談の上、希望に沿った研修内容を調整していく。また、看護師・薬剤師・臨床工学技士等の参加による多職種研修を取り入れ、チーム医療について学ぶ。

(1) カンファレンスと回診

- ・ 朝・夕 2 回のカンファレンスを行う。プレゼンテーションやディスカッションを通じて患者の病態や治療方針について理解を深める。
- ・ 机上回診を週 1 回行い、より詳細な検討を行う。

(2) 研究会・抄読会・勉強会等

- ・ 抄読会、症例検討会を週 1 回行う。
- ・ Advanced Life Support Course (ACLS：心肺蘇生コース)、Japan Advanced Trauma Evaluation and Care (JATEC：外傷初療コース)、Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care (JPTEC：病院前救護コース) などのコースに関する勉強会を行う。

7. 研修医の主な業務

- ・ 救急患者の初期診療・処置
- ・ 集中治療室及び一般病棟の診療・処置
- ・ ドクターカー同乗

8. 研修スケジュール

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
月		カン ファ レン ス	病棟 回診	病棟診療・救急搬入						カン ファ レン ス		
火												
水			病棟診療	机上回診 症例検討	勉強会	病棟診療・救急搬入						
木			病棟 回診	病棟診療・救急搬入								
金												

※ 1 当センターでは、24 時間体制で平日・休日の区分なく救急患者を受け入れ重症患者管理を行っていることから、研修医の希望に応じて、平日・休日の区分なく研修を行えることとする。

土日・祝日に勤務した場合は、平日を休暇日とする。

※ 2 当センター研修中か否かに関わらず、希望により当直に入ることができる。

9. 初期臨床研修時の症例を活用できる専門医資格

- ・ 救急科専門医

10. 研修協力施設

- ・ たすきがけ研修病院（協力型臨床研修病院）
市立札幌病院、札幌徳洲会病院、市立函館病院、帯広厚生病院、市立釧路総合病院
- ・ 短期研修可能な施設（臨床研修協力施設）
手稲溪仁会病院、札幌東徳洲会病院、勤医協中央病院